

2021年1月30日

2020年度聖路加国際大学大学院看護学研究科

課題研究論文

論文題目

外国人介護職の働きやすさに関連する要素：

文献レビュー

**Factors Related to Workplace Wellbeing
in Non-Japanese Care Workers in Japan:
A Narrative Review**

学生番号 19MN021

氏名 寺本健太

論文要旨

〔研究目的〕 文献検討を通して、日本で就労する外国人介護職の働きやすさに関連する要素について整理、考察し、必要な支援の在り方の示唆を得ることである。

〔方法〕 文献は、医学中央雑誌 Web、CiNii、PubMed、CINAHL を用いて検索した。検索したキーワードは、2019 年 12 月時点で、「外国人」、「介護」、「caregivers」、

「occupational health」、「continuing employment」を検索ワードとして使用し、外国人介護職の働きやすさに焦点をあて、文献検索を行い、検索結果より採用された文献の概要の記述、文献に記述されている外国人介護職の働きやすさに関連する要素の文脈から抜粋を行い、カテゴリー化した。

〔結果〕 外国人介護職の働きやすさに関連する要素については、分析対象文献から 111 のコードが抽出された。そこから、25 のサブカテゴリー、11 のカテゴリーに分類した。抽出されたカテゴリー【日本で介護を学ぶ意思があること】、【日本で生活する意思があること】、【家族とのつながりを重要視する】、【母国と異なる生活背景や価値観に直面する】、【外国人訪問介護職だからこそ生じる働く上での困難さ】、【働き続けることにつながった支援】、【周囲から受けた生活し続ける上での支援】、【外国人介護職が働く中で肯定的な変化を実感していくこと】、【文化的背景の違いを互いに受け入れ、働きやすさを形成していくこと】、【仕事で日本語を効果的に用いることができない現状】、【受け入れ体制が整備されていない職場に配置されること】を、さらに働きやすさに関連する要素の関係性として、時系列「働く前から持ち合わせているもの」、「働く中で生まれてくるもの」、働きやすさによる分類「働きやすさを促進するもの」、「働き続けることを阻害するもの」、「働きやすさを生み出していくもの」、「働き続けることを困難にするもの」に整理した。外国人介護職は、働き続けていく過程で、「働く前から持ち合わせているもの」、「働く中で生まれてくるもの」の 2 つの要素が連動し、一体化していき、外国人介護職にとって、働き続けていくことを可能にする支えがあると実感できることが働きやすさであると示唆された。

〔結論〕 外国人介護職への支援の在り方については、結果で得られた 2 つの要素をふまえ、外国人介護職本人が働き続けられることを実感できるために、文化価値観や生活環境の違いの理解に努め、保健医療システム、行政サービス、地域の社会資源を利用できるよう、保健師は産業や行政など他機関と連携しながら、関わっていく必要がある。